令和元年度　沖縄県振興審議会
第２回文化観光スポーツ部会　議事要旨

令和元年９月３ 日（火）　13：30～15：30

議題
【沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）当総点検報告書（素案）　第３章　基本施策の推進による成果と課題及びその対策（文化観光スポーツ部会関連）】について

【平田副部会長】

○　10ページ(資料８)ですが、芸大がキャリア支援をかなり充実させている面では評価が高いと思いますが、本来アートを目指している人たちが、就職だけではなくて自分で起業するとか、自分自身のセルフマネジメントをすることも今後必要な分野だと強く思います。

○　「起業を含む」と書いていますが、その部分の数値化できているのか、もし起業を含むのであれば、文化とは、文化の仕事だけではなくて、いわゆる病院であったりとか、あるいは自分自身が福祉関係とつながっていたりとか、これからどんどん文化の役割は、社会的課題に対して必要とされる部分が広がってくるのではないかと強く思っています。そういう視点を学生たちにどうしっかりと気づきを与えていけるか、芸大の大きな役割ではないかと思います。

○　スポーツは１点だけ、380ページの38行目です。「また、芝生管理の専門的知識を有する人材を育成し、グラウンド芝生環境の向上を図るなど、スポーツ・レクリエーション環境の整備及びスポーツコンベンションに対応した施設の充実を図ったことで、サッカーキャンプの件数も過去最高となった」と。これはかなり重要なポイントだと考えています。つまり人材育成というところが本当に実を結んだ一つの事例だと思いますので、こういったところは注目をすべきだなと。

○　しまんちゅ養成講座の立ち上げのころに私もかかわったことがありますけれども、これが本当に機能していて、そういった取り組みの成功事例が、ほかの進展遅れのところに対して、何かの示唆に富んだものがあるのではないかなと思うわけです。結論から言うならば、それをぎ回せばエンジンになるような団体あるいはちゃんとしたコーディネーターのような企業なり専門家がいたのが大きいポイントだと思います。

○　そういうカリキュラムを組んだおかげで、スポーツコンベンションの部分で言うと、サッカーキャンプの件数が増えたのは大きなテーマですし、読谷でも今度ラグビーのキャンプもありますけど、そういうところに影響が出ていると思いますので、成功事例を大きくクローズアップして、なぜ成功したのかも評価として見ていくと、恐らく課題抽出で終わらずに、成功事例に光を当てていく作業も必要だなということを感じました。

【大城専門委員】

○　芸能関係ですが、芸の継承をしていくということで、例えば伝統組踊保存会などは次代を担う方々に伝承者として頑張っていただいていますが、内部を見てみると随分と高齢の方々が伝承者として保存会で認められていて、高齢なものですからなかなか舞台に立つチャンスがないそうでして、組踊をする方々が非常に増えている一方で、事業の展開の仕方とか、伝承者の認定といいますか、そういうところで、人数だけたくさんいるけど、その中ですばらしい演技ができるとは言えないのではないかと、内部の方のお話を聞くとそういうことがあり、今年はたまたま組踊300年なので、そういうところでチェックしてもらうほうがいいのではないかとありました。

○　ですから、伝統芸能の継承がどうあればうまく展開していくのかというところを考えておかなければいけないと思います。以上です。

【富田専門委員】

○　全体を伺って思ったことは、これは計画案ではありますけれども、ここにどれだけ実施できる具体的なアクションを盛り込めるのかがとても大事ではないかと思いました。

○　例えば今大城先生からもありましたが、組踊が今年こんなに華やかになっているのは、具体的にやはり芸大ができたことと、国立劇場ができたことがあって、爆発的に公演の数も増えましたし、それから人材育成が本当に具体的に進んだということもあるかと思います。

○　もちろん就職率が上がることも大変重要なことでありますし、それぞれのアートに携わる皆さんが起業することも大切です。ただ、全ての人材をそこで面倒を見ることは難しいかと思いますので、例えば理解のある企業の皆さんは県が認定をするとか、パトロン企業とかというステッカーをあげるとか、国税だと難しいかもしれないですけど、県の法人税とかの軽減とか、具体的な取り組みが必要ではないかと思いました。

○　もう１つ、しまくとぅばに関してもさまざまな取り組みがなされていますけれども、日常生活で私たちはしまくとぅばに触れる機会が大変少なくなっていますので、舞台の中でしかしまくとぅばは残らないのではないかという危機感もありますけど、イベント的に月に１回とか年に１回しまくとぅばに触れるよりは、日常生活の中にたくさんのしまくとぅばがある中に私たちが身を置くと。その中でしまくとぅばのよさに気づき、強制的にというよりは、日常生活の中で自然に身についていくようなことはどうすればできるのかなと思っています。

○　教育の分野もそうですけれども、ラジオ体操が必ず全員できるように、沖縄県民全員かぎやで風は絶対に踊れますとか、かぎやで風はそらで絶対に歌えますとかというようなことを教育の中でも取り入れる取り組みが必要ではないかと思いました。

【原田専門委員】

○　資料８の検証シートの20ページについてコメントさせていただきます。スポーツコンベンションの県内参加者数は、平成29年の時点で令和３年度の目標値を超えたということで、非常にいい成果を出していると。その裏にはスポーツコミッション沖縄をつくったと。私も設立にかかわらせていただきましたけど、非常に大きな成果を上げているということで、アウターの政策ですね。すなわち県外から人を呼び込んで、経済の活性化を起こすという部分は非常にうまくいっている感じがします。

○　その一方、インナーの政策といいますか、沖縄県のスポーツ振興は、スポーツ実施率とか総合順位とかを見ても、まだまだ低い状況にあります。

○　今内閣府が中心になってまち・ひと・しごと創生交付金というのを出しておりまして、いわゆる総合戦略を国で立てています。それが各都道府県にこれから下りてきますが、次年度は1,150億円が分配されます。その中でことしの目玉にしようとスポーツ庁と一緒に動いているのがスポーツ健康まちづくりです。だからスポーツだけでなく、まちづくりという非常に包括的な視点から見ようと。

○　そうなってきますと、その中には官民協働の話とか、地域間連携とか、政策間連携とか、あるいは事業推進主体をこれからどうするか。総合型地域スポーツクラブとか、スポーツ推進員とか、実はかなり古い政策になりまして、うまくいっていない事例も多いので、例えば総合型を事業体にして、みずからお金を稼いで指定管理までやってしまおうと、そういう稼げる組織に変えていくのが今後の国の政策の一つにするように今努力しております。

○　沖縄県もアウターは比較的うまくいっていますが、インナーをこれからやっていく、そういう部分は非常に重要ではないかと感じた次第です。以上です。

【石原専門委員】

○　全体を通して感じたことは、データをどう収集されているかがよくわからないので、明記してほしいというのが１点と、総点検報告書素案の後ろに、成果指標を一覧に出してくださっていていいなと思って見てきましたが、まださらっと見ただけですけど、この指標でいいのかという点と、足りないところはないのかという見方で見ているところです。データに関してはこの２点です。

○　空手に関してはすごいグッドコンテンツになる可能性があって、例えば360ページに、県外・海外から空手関係者がたくさん来ている状況の数値が出ています。その数値指標だけではなくて、来てどれぐらい滞在してくださっているのか、関係者以外で、私みたいに空手は全然関係ないけど、沖縄に来て空手を１週間で覚えられたらいいなみたいな人でも来るようになればとてもグッドコンテンツになるのではないかと。マーケティング戦略というか、ターゲットを絞ってデータをきちんととりながら見ていく戦略がこれからもっともっと必要ではないかなと。数だけではなくてもっと中身がわかるようなデータのとり方をしたほうがいいのかなと思っています。

○　スポーツに関して、資料８の20ページ、特に私はコーチのところでいろいろ調査していますけれども、スポーツの実施率が成人の週に１回しかないというのもそうですけど、子どもたちもそれ以前の問題で、体力も二極化していますし、スポーツの実施率も分かれています。小学校の前の幼稚園の時期からそうな

っているというデータが出ていまして、多分沖縄も同じ状況だろうと予測していますけど、大事なことは、運動しようよと言ってあげられる指導者が必要で、そういう意味では、沖縄が安全・安心でみんなが健康になれるというベースになるので、指導者をどう育成するかのもっと具体的な対策が必要ではないかと。

○　特に沖縄の小学生は部活をします。部活を指導している指導者は、お父さん、お母さんが一生懸命されていますけど、ボランティアで仕方なくされていることが多いです。ちゃんと理論をわかって教えているケースがないことが多いので、全国的に同じ傾向ですけど、沖縄ならできるのではないかといつも思っていますが、少なくとも全員が資格を持てるような制度を県でつくってしまうとかすれば、もっと運動に親しめる子どもたちが育っていのではないかと思っています。

【ダルーズ専門委員】

○　よく組踊とか琉球舞踊、歌劇を観賞する機会が少ないと書いてあって、一般県民も子どももだと思いますけど、354ページの11行にありますけど、皆さんは気づいているかもしれませんが、舞踊とか組踊は見る県民はいますが、空手を見に行こうという県民はほとんどいないです。

○　なので、学校現場で、舞踊もそうですけど、空手を鑑賞すること、空手のすばらしさを見せること、これは空手だけではなくて芸能と組み合わせてもいいし、空手だけではだめかもしれないし、それを354ページに「組踊、琉球舞踊、琉球歌劇等の無形文化財を鑑賞する機会」、そこに「沖縄空手」を入れたらどうかなと思っています。

○　357ページの40行に、「伝統文化の後継者が不足しているため」と書いてありますけど、これは舞踊だけではなくて、県内に空手道場は350あるとはいえ、高齢の方が道場主になっていて、やはり次世代をどうするかと。ただ道場を運営するのではなくて、今のニーズに合った運営の仕方を考えていかないといけない。

○　大概は道場を運営して、それで飯を食っている。ではそれが悪いではなくて、恐らく舞踊道場の運営も空手道場の運営も一緒だと思います。どうやっていいものを売っていくか、いい社会貢献することを考えていかないといけないので、次世代である道場の経営をどうするかという支援は県でやっていただければと思っています。

○　空手のネットワークは１億3,000万人と言われている。これは少し私大げさとは思ってはいますけれど、6,000万人から１億人いるのは間違いないです。

○　なので、この人たちをどうやって引っ張っていくのか。沖縄県内に空手関係者は7,000人ぐらいしか来てはいないですけど、この夏、７月、８月だけで2,500人が来ています。空手のネットワークをもっとつくっていって、沖縄に効果が生み出せるような環境をつくっていければと思います。

【佐野専門委員】

○　１点目は、指標の実績値などの数字の生データとは言いませんけど、定義とか計算式が知りたいと思います。結局、達成できなかった要因分析にもつながっていると思うので、その中身を開示していただけれるとありがたいと思います。

○　２点目は、定量指標が多いのは政策を評価するときには当然だと思いますけれども、定性的なところの視点が欠けているのではないかと。確かに量を確保しなければいけない、量を達成しなければいけないものもあると思いますけれども、本来質を伴うべきというか、あるいは量が確保できなくても、質のところで前進があった、改善があったということであればいいのではないかというものもあると思います。

○　例えば今回ウチナーンチュネットワークのところなども、数字はそこそこいいけどまだ達成できてないというところで、数字だけよりは、アイデンティティが強化されていくようなしっかりしたネットワークがつくれているのであれば、必ずしも人数が確保できていなくてもいいとか、各地に県人会があって、村人会があって、ちゃんとつながっているとか、そういうことも補足で説明できれば、多少数字が達成できていなかったとしても、十分県民の皆さんは評価をされるのではないかと思うので、質と量の部分のバランスのとれた説明をしていくほうが、県民の皆さんにとっても理解しやすいのではないかと思いました。

○　３点目は、指標の達成状況と、次の課題の関係性がよく見えない。例えば先ほど生涯スポーツのところで、まだ達成できていないということで二極化、生涯スポーツする人、しない人、それから20代から40代までがなかなかスポーツしないとなっていますけれども、そういう分析がある中で、資料10の381ページの課題及び対策では、引き続き「機会創出を図り」となっています。

○　でも、先ほどの検証シートで20代から40代までスポーツをしないとか、二極化されているときに、機会を創出することに一生懸命になっても、結局、結果はあまり変わらないのではないかなと思いますので、検証した結果と課題・対策のところが少し乖離があるように、今の記述では思います。

○　最後は私の担当の交流部分で、実は報告書の644ページ、５　多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指しての(4)　国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築、ここはまさに国際性を持った教育あるいは子どもたちを育成していくということで、国際理解教育が非常に関係する部分だと思います。

○　ここは教育庁と一緒に管轄すると書かれていますので、もしかしたら教育庁の部会で議論されているのかもしれませんけれども、ＪＩＣＡが県と一緒に連携してやっている国際理解教育は、生徒に直接の部分だけではなくて、教員の皆さんを海外に派遣したりとか、ボランティアに県の方が現職で派遣されて、国際性を持った先生が戻ってきて学校の現場で教えるということもできていますけれども、今回の素案には全く触れられてなくて、少しもったいないなと思っています。

【與那嶺専門委員】

○　文化の継承にしても、世界との交流等にしても、やはり若い世代、次代を担う子どもたちから力を入れていくべきものが多いのではないかと感じております。

○　我々財団の事業等を御紹介させていただきたいのですが、毎年少数ではありますが12名程度を海外のウチナーンチュとしての子どもたちを受け入れて、１年間大学とかに留学をさせております。まさにきのうから子どもたちが伊江島の家庭に２泊、ホームステイして、多分ウチナーンチュのチムグクルといいますか、そういうものを味わってきょう帰ってくると期待しております。

○　それと同じように、教育委員会がやっているような事業で行った子どもたちは、とてもかけがえのない経験をして帰ってきます。その部分の他部局との連携はどうなっているのかが気になったところでございます。

○　先ほどのしまくとぅばにしても、空手にしても、ある意味クリアしないといけない課題は、こういう連携なしにはできないのではないかと思います。例えば背景・要因の中にもあまり触れられてないところがあったものですから、少し気になったところでございます。以上です。

【小島専門委員】

○　まず今、政治問題とかで香港とか韓国とかいろいろな問題が起こっている中で、一番観光がそういったものに影響されやすいのですけれども、影響されにくいものがスポーツであり、文化であり、そういったものではないかと思います。

○　海外の方もとても空手に興味を持って、沖縄に来られる方も多いですし、しまくとぅばについても、沖縄に住んでいてもなかなかしまくとぅばに触れる機会もないので、伝統文化とあわせてしまくとぅばに触れるところ、あと空手もそうですけれども、伝統文化の継承にしてもそれを披露する場所も少ないです。

○　話が飛び飛びになりますけど、ナイトコンテンツについて最近触れる機会が多いですけど、海外からの意見も多い。また、ナイトコンテンツを始めたのですが意見を聞かせてほしいというところで、いろいろ見に行かせていただいたりします。

○　ただそれも内容はとてもよくて、頑張ってらっしゃるのもすごく伝わってきますけれども、お客さんはがらがらだったりします。あるところで満席のところがありました。そこのお客さんの内容を見ると、県内の方が多かったです。これはいいなと思いました。海外の方、それから県民の方が一緒に楽しめるような、文化観光を推奨できるような施設ができればいいなと本当に思いました。

○　ただ自力走行するというか、そういった部分では非常に大変だと思います。演者さんへの毎日のお給料とか会場費とかを考えたときに、いくらで売らなければ引き合わないんだろうと。数名しかいなかったりするわけです。

○　海外のお客様もナイトコンテンツがない、夜行くところがないよと言って、そこをのぞいてみたけれども、１人、２人のところは非常に寂しいですよね。そこの時点でもうこれはという感じで、二度と行かないみたいな感じになるわけです。

○　だから、満席になるような披露する場所とか、そういったところで場所の提供、演者さんが毎日できるところ、それから空手も含めて触れられるようなところができるといいなと非常に今思っています。

【前田専門委員】

○　私からは２点です。まず１つは、皆様からも出てましたけれども、数字の根拠がわかりづらいのがありまして、２つ言わせていただきます。

○　まず資料８の20ページで、スポーツコンベンションの県内参加者数が目標達成となっていますが、多分ここはスポーツアイランド沖縄の健康・長寿のためのスポーツの部分と、あとスポーツコンベンションのコンベンションが何なのかわからなくなりました。

○　地元の方々にさせる、見る、地元の人たちがやる、楽しむ人がこれだけいましたなのか、キャンプに来た人たちを見に来た県内客のことなのかとか、よくわからなくなった。

○　あともう１つはしまくとぅばですけど、私もしまくとぅばの達成率は何から来てるのかなと思ったのと、さっきどなたかからも出てましたけど、目標値が挨拶程度話せる人の割合の挨拶程度というのはどのレベルをいうのだろうというのもよくわからなくて、「ハイサイ」をどのシチュエーションで言えれば私は話せる人なんだろうかなと。なので、これだけは絶対県民誰でも言える、歌える方言みたいなものがあると、具体的でいいのかなと思いました。

○　あと、地方によってもしまくとぅばが違うので、どれをもってこれだけしゃべれたと言えるのかも、何が基準値なのかがよくわからない。

【當山専門委員】

○　前田さんからもありましたけれども、しまくとぅばに関していくと、前田さん、我々ホテルは、ハイサイ、ハイタイ、これやりますか。みんなでまずは。実は20年前にうちのホテルでやったんです。浮きましたね。時代がついてきてなかったです。だから、そういう意味でいくと、教育やさまざまなものになっていますけれども、そろそろ具体的にしっかり啓蒙して、日常的に使っていくというアクションの指標になってもいいのかなという気がします。

○　それから資料８の11ページ、指標が県博や美術館、国立劇場おきなわの入場者数になっています。指標としてこれはこれでいいのかなと思っています。この指標を増やすことがツーリズムの世界で文化ツーリズムに参加をした方々の指標になるので、ぜひ組踊を組み入れた商品の創製に次のステップとしてどんどん行って、目標の数字をどんどん高めていくことでいいと思います。

○　それから20ページのスポーツアイランドです。成果指標の１から５がピンと来ないんです。大会の順位であったりとか、参加人数とか、施設の利用者数とかになっていますけれども、ツーリズムの観点からいくと、持続的な生涯スポーツとしてのライフスタイル化がとても重要かなと、この指標で果たしていいのかなという気がしています。これはどちらかというと競技スポーツに近いような指標になっているような気がします。

○　時速５キロのウォーキングであったり、トレッキングであったり、時速15キロの自転車であったり、参加型スポーツの指標としてツーリズムの世界でもとても重要な要素になってきていますから、そろそろそういうものも指標の中に入っていいのではないかと思います。

【東専門委員】

○　総点検を何のためにやっているかというのは、次期振計のためにやっていると思います。ですから、今、世の中の変化が激しいですから、企業では３年間の事業計画はつくれない状態です。経営コンサルタントに行っても、事業計画をつくること自体が間違っていると言う人も今いますから、そういった部分では、10年前に策定された21世紀ビジョン、私もど真ん中にいましたので、別に総点検するのは絶対に無駄にはならないとは思います。ただ次にどうつなげるかを常に意識して点検していかないといけないと思います。

○　100点で達成したものであっても、次期振計にはもう載せないものもあるでしょうし、もっと高度化しないといけないものもあるでしょうし、自走させてしまって外していくものもあるでしょう。

○　また進展遅れの部分も、もう１回チャレンジして次の10年で本物にしていくものもあるでしょうし、時代の要請にそぐわなかったのでもうこれはやめましょうというものも出てくると思います。

○　ですから、達成したかどうかということと、次につなげるかどうかとは別問題だとみんな認識しないと、もちろん大切だけれども達成できてない、これは何かということを検証するのはとても重要なことだと思いますけど、達成したものが目標が低かったのかもしれないということが出てきますので、そういう意味では俯瞰的な目で見ていかないといけないと思います。

○　次に、恐らく６次振計ではＳＤＧｓであるとか、Society 5.0とか、またはデジタルの部分がたくさん出てくると思います。第５次の部分での断捨離で捨てていく部分も出てくるということも考えないと、積み上げていくだけでは限られた予算と限られた人員の中でやっていくのは非常に厳しいと思います。

【下地部会長】

○　データの根拠というのはなかなか資料を見せられるだけでは難しいなというところがありますので、その根拠は別の形でこういう中身だというのがわかればいいなとまず思いました。

○　資料を見ていると、目標があって達成したとなってしまうと、もうこれで何か終わったような感じがしてしまって、実はもともとの目標の設定がどうだったのかは検証しないといけないのではないかと思っています。

○　例えば一つの例でいうと、11ページに県立博物館・美術館の入場者数の目標が50万人に対して、実績が50万4,000人で目標達成となっていますけど、首里城が200万人以上、美ら海水族館だと500万人以上で、この10年の沖縄の観光の大きな伸びという中で考えれば、県立美術館・博物館は、結果的に100万人を超えるぐらいになっていて初めて目標達成と言えるのではないかと、例えばそういうことも考えていかないと、基準年と目標年と現状の達成状況にあまり左右されないことも必要ではないかなと思いました。

○　あと数字の件に関しては、確かに計画をつくるときに私も県にいて、とにかく定量的に示すことが大事だということで、数値目標をとにかく入場者数とか参加者数、そういうことをずっとやって、これがわかりやすい指標だと言ってきましてけれども、次の振計に向けては、量から質へ、量と質のバランスを考えたときには、先ほど各委員からもお話がありましたけれども、やはり質を意識した指標が、指標の中で明確に分かれるような、定性的な意味合いを含んだ指標が、目標値にしっかり見えるようになっていかないとな

かなかわかりにくいのではないかなと。

○　これまでなかった満足度とか、全然別の指標がこれからは必要になってくると思いますので、こういったところも次に向けては検討が必要ではないかなと思いました。

以上